

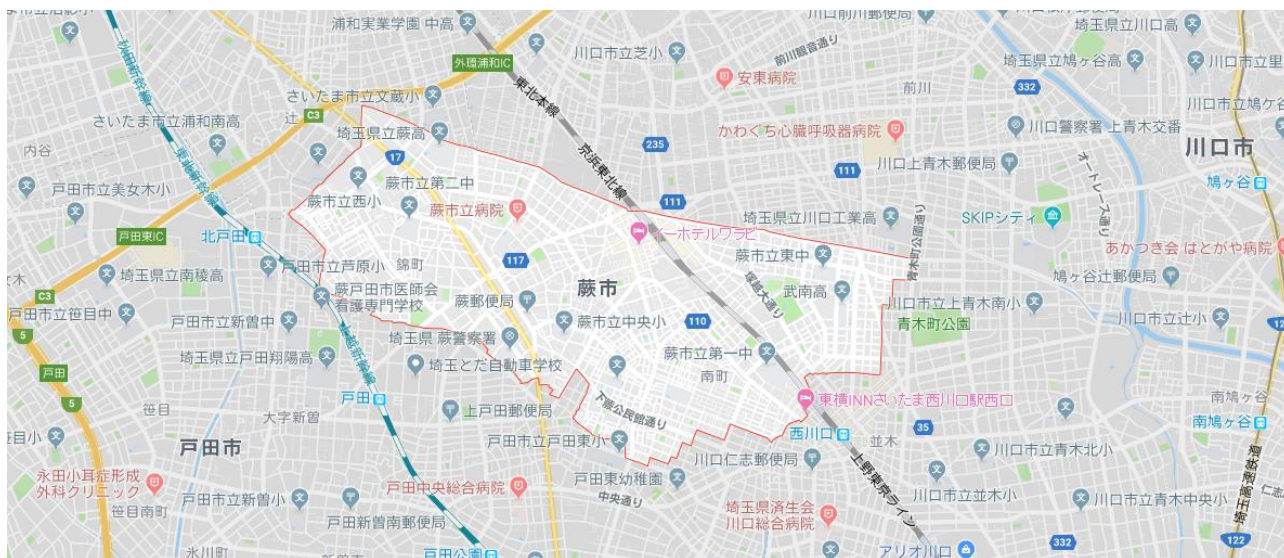
(1) 蕨市の状況

1. 蕨市の概況

○蕨市の位置

本市は、都心まで約20kmの埼玉県の中央地域と呼ばれる県南部J R京浜東北線沿線地域に位置し、北をさいたま市、東を川口市、西を戸田市と接している。市域の特徴としては、全国の市の中で最も面積（市域面積5.11km²）が狭い。

また、市全域が概ね平坦で、周辺市の市街地と連続する形で住宅市街地が形成されており、全国の市の中で最も人口密度（令和4年1月1日現在14,753人/km²）が高い。



○蕨市の歴史

古くは中山道の宿場町としてにぎわいを見せ、その後は機織物のまちとして栄えた。戦後、特に高度経済成長期からは、東京への交通利便性を活かした住宅都市として発展し、現在に至っている。



大正11年ごろの中山道蕨宿

中山道の江戸（日本橋）から2番目の宿場町として、1612年に成立したと考えられ、現在も景観条例により、保全に取り組んでいる。



成年式発祥の地記念像

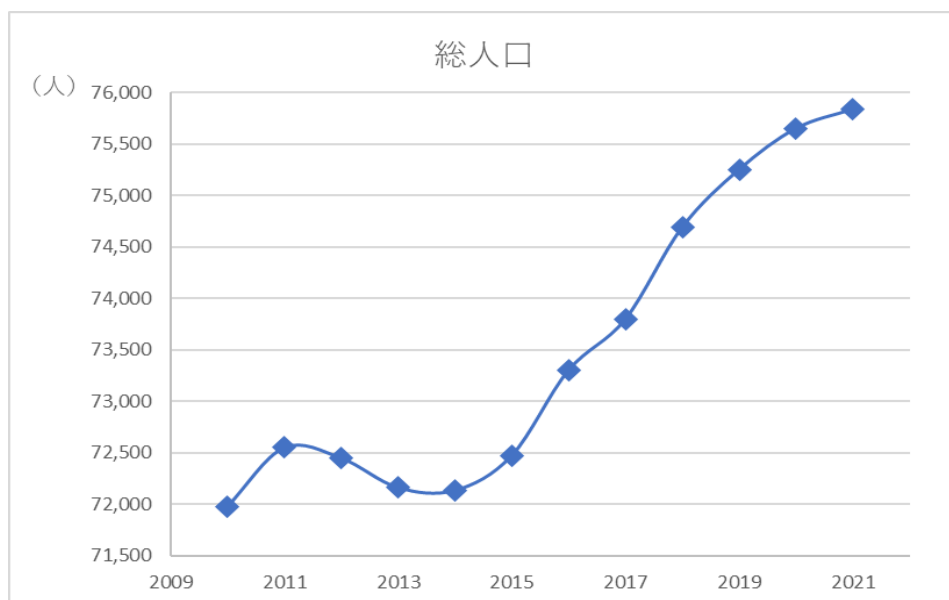
本市は成人式の起源となる成年式を全国に先駆けて開催し、成人式の発祥の地として知られるようになった。

○蕨市の人口

・総人口の推移

図表①のように、過去の本市の総人口（各年4月1日時点の住民基本台帳人口）の推移をみると、ほぼ横ばい傾向が続いていた人口が、平成28年（2016年）あたりから増加幅が大きくなり、令和3年（2021年）には、75,841人となっている。

図表①蕨市総人口の推移



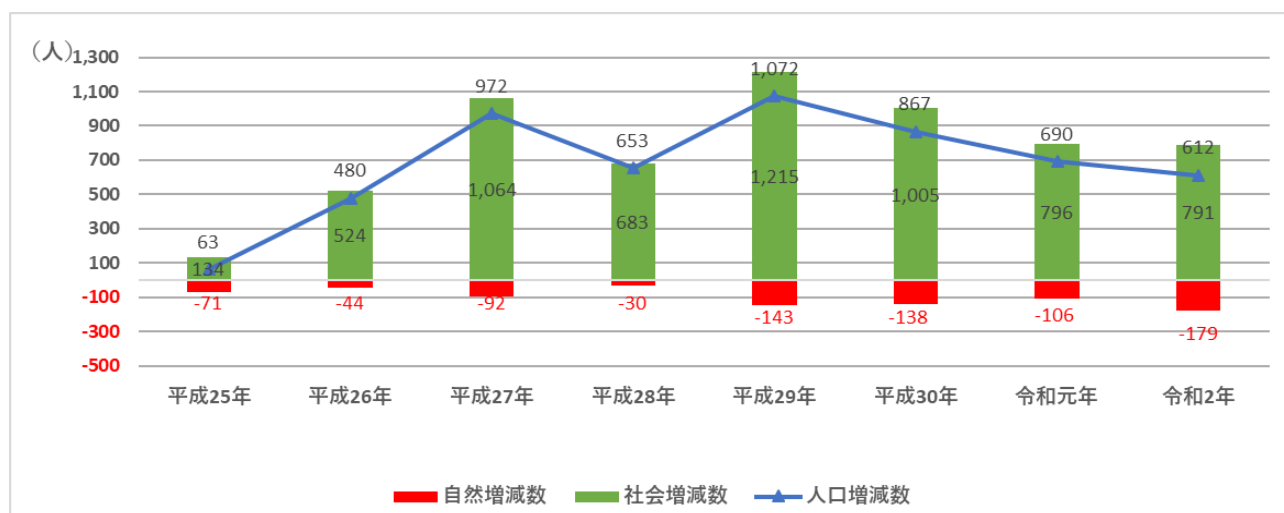
・人口動態の推移

図表②のように、本市の人口（各年3月31日時点）の動態をみると、令和2年の人口増減数は612人の増となり、平成25年頃から「自然減・社会増」の傾向が続いている。

人口の社会増についての主な要因としては、外国人居住者の増加のほか、マンション建設等に起因するものなどが挙げられる。

図表②人口動態の推移資料

「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数に関する調査」（総務省）、及び「住民基本台帳」（蕨市）平成25～令和2年度



・区分別人口統計

図表③の区分別人口統計をみると、各区分人口の構成比すべてが、ほぼ横ばいであるが、本市の65歳以上の高齢化率は、国の水準（29.1％・令和3年9月15日）を下回る23.1％となっている。

図表③総人口及び年齢4区分人口の推移（住民基本台帳人口 各年4月1日）

		平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年
年少人口 (0～14歳)	実数(人)	8,057	8,152	8,101	8,120	8,059
	構成比(%)	10.9%	10.9%	10.8%	10.7%	10.6%
生産年齢人口 (15～64歳)	実数(人)	48,641	49,273	49,763	50,060	50,288
	構成比(%)	65.9%	66.0%	66.1%	66.2%	66.3%
老年人口 (65歳以上)	実数(人)	17,102	17,268	17,390	17,474	17,494
	構成比(%)	23.2%	23.1%	23.1%	23.1%	23.1%
75歳以上	実数(人)	8,314	8,544	8,903	9,084	9,023
	構成比(%)	11.3%	11.4%	11.8%	12.0%	11.9%
総人口	実数(人)	73,800	74,693	75,254	75,654	75,841

・外国人人口

図表④のように、外国人人口の推移をみると、この10年で外国人の人口が倍増しており、令和3年（2021年）4月1日時点で総人口の約10％を占めている。なお、国籍別では中国が全体の6割程度を占めており、ベトナムが次いで多くなっている。

図表④ 外国人人口の推移と総人口に占める割合（統計わらび）

	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
総人口	71,979	72,552	72,452	72,166	72,137	72,474	73,304	73,800	74,693	75,254	75,654	75,841
日本人人口	68,367	68,807	68,914	68,755	68,450	68,555	68,671	68,449	68,532	68,496	68,206	68,280
外国人人口	3,612	3,745	3,538	3,411	3,687	3,919	4,633	5,351	6,161	6,758	7,448	7,561
外国人比率	5.0	5.2	4.9	4.7	5.1	5.4	6.3	7.3	8.2	9.2	9.8	10.0
人口増減数		573	-100	-286	-29	337	830	496	893	561	400	187

○産業

・本市内の小規模事業者数

本市内の商工業者数と小規模事業者数は、図表⑤のとおり、大きく減少している。特に小規模事業者数は減少幅が大きく、小規模事業者の占有割合も年々減少している。

図表⑤商工業者数と小規模事業者数（経済センサス活動調査）

	平成19年度	平成25年度	平成30年度	令和2年度
商工業者数	3,098社	2,856社	2,611社	2,380社
小規模事業者数	2,518社	2,289社	2,059社	1,848社
小規模事業者占有割合	81.27%	80.14%	78.85%	77.64%

・産業分類別事業所数

図表⑥のとおり、「統計わらび」をみると、本市における商業・サービス業は8割を超えており、主だった特産品や主要産業がない本市にとっての主要産業に位置付けられる。

図表⑥産業分類別事業所 出典「令和2年版統計わらび」より

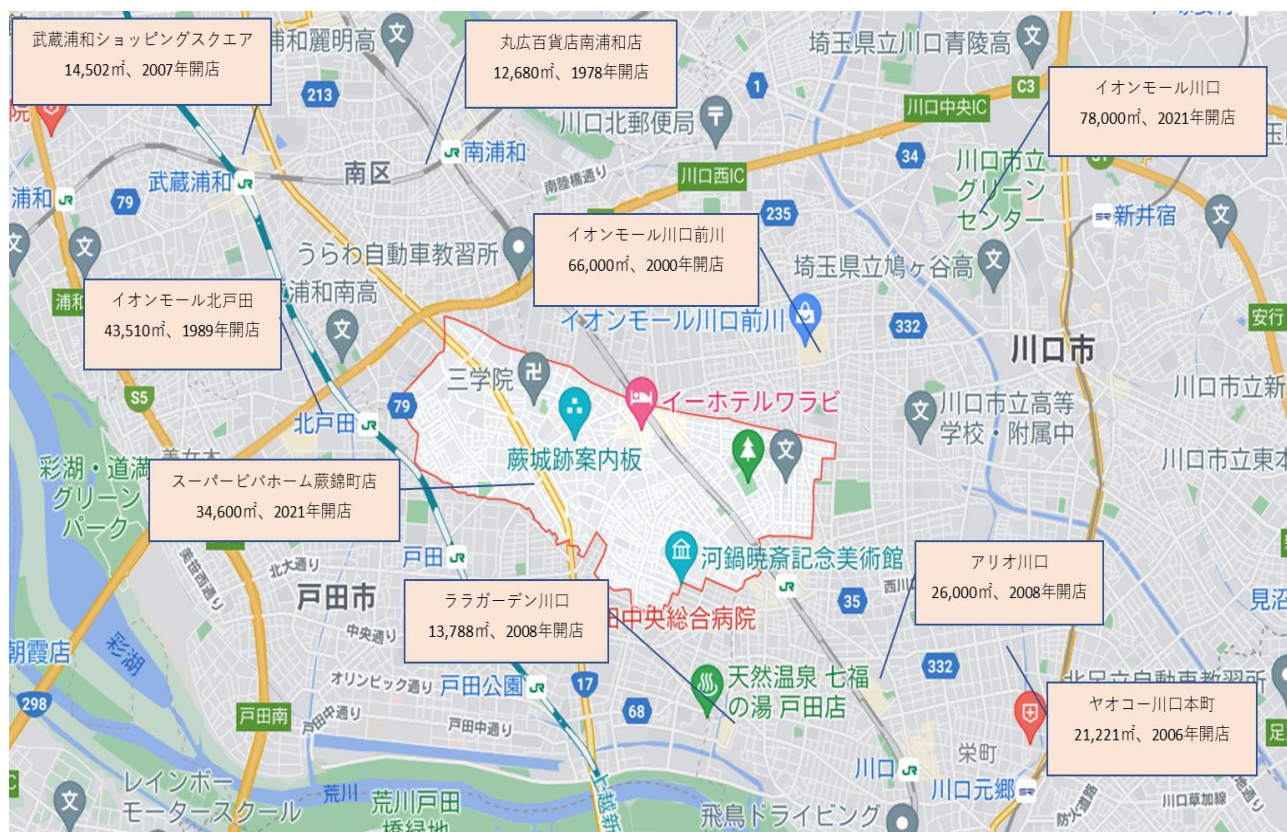
産業分類別事業所														
分類別	製造業	建設業	卸売・小売業	飲食店 宿泊業	不動産業	医療・福祉	教育・学習支 援業	複合サービス 事業	サービス業 (他に分類さ れないもの)	電気・ガス・ 熱供給・水道 業	情報通信業	運輸業	金融・保険業	公務(他に分 類されないもの)
	製造業	建設業	商業・サービス業							その他事業				
事業所数	252	225	759	558	285	204	138	9	552	5	22	26	33	12
事業所割合	8.2%	7.3%	24.6%	18.1%	9.3%	6.6%	4.5%	0.3%	17.9%	0.2%	0.7%	0.8%	1.1%	0.4%

2. 中心市街地の状況

・周辺の商業環境

図表⑦にもあるように、本市の近隣地域には郊外型の大規模ショッピングモールが多く乱立しており、小規模事業者における商業環境は厳しいものになっている。

図表⑦中心市街地を取り巻く郊外型ショッピングモールの立地



○中心市街地の活性化

・蕨市中心市街地活性化基本計画

本市では、まちのにぎわいを取り戻すため、蕨市中心市街地活性化基本計画（計画期間：平成27年4月～令和2年3月）を策定し、平成27年3月に内閣総理大臣の認定を受けた。当該計画の推進にあたり蕨商工会議所が、中心市街地活性化協議会を設立し、計画の進行管理や事業内容等について調整を行い、中心市街地整備推進機構である（一社）蕨市にぎわいまちづくり連合会や中心市街地内の商店街とともに各種事業を実行した。

また、中心市街地の新たな拠点づくりを図るため、本市の顔である蕨駅西口において蕨駅西口地区第一種市街地再開発事業を行っている。第一工区が平成23年度に終了し、現在、駅側の第二工区が事業推進に向け取り組んでおり、本市の玄関口が大きく変わり新たなにぎわいの創出が期待されている。

・空き店舗数

図表⑧の空き店舗数をみると、平成27年3月時点で空き店舗数は54件であり、その後増加していったが、令和元年3月には45件となり、ピーク時の65件から20件減少している。本市では、空き店舗対策支援として実施している「蕨市空き店舗有効活用事業」の補助制度（改装費、広告費等）の効果が出ている一方で、空き店舗が更地になり、その後戸建て住宅やアパートなどが建設されたことによる減少分も大きくなっている。さらに、平成30年度に行った空き店舗調査では、不動産業者を通して貸し出されていた空き店舗は45件中わずか5件であった。

図表⑧空き店舗数と貸店舗数

	平成27年3月	平成28年3月	平成29年3月	平成30年3月	令和元年3月
空き店舗数	54件	56件	65件	55件	45件
貸店舗数	未実施	未実施	未実施	未実施	5件

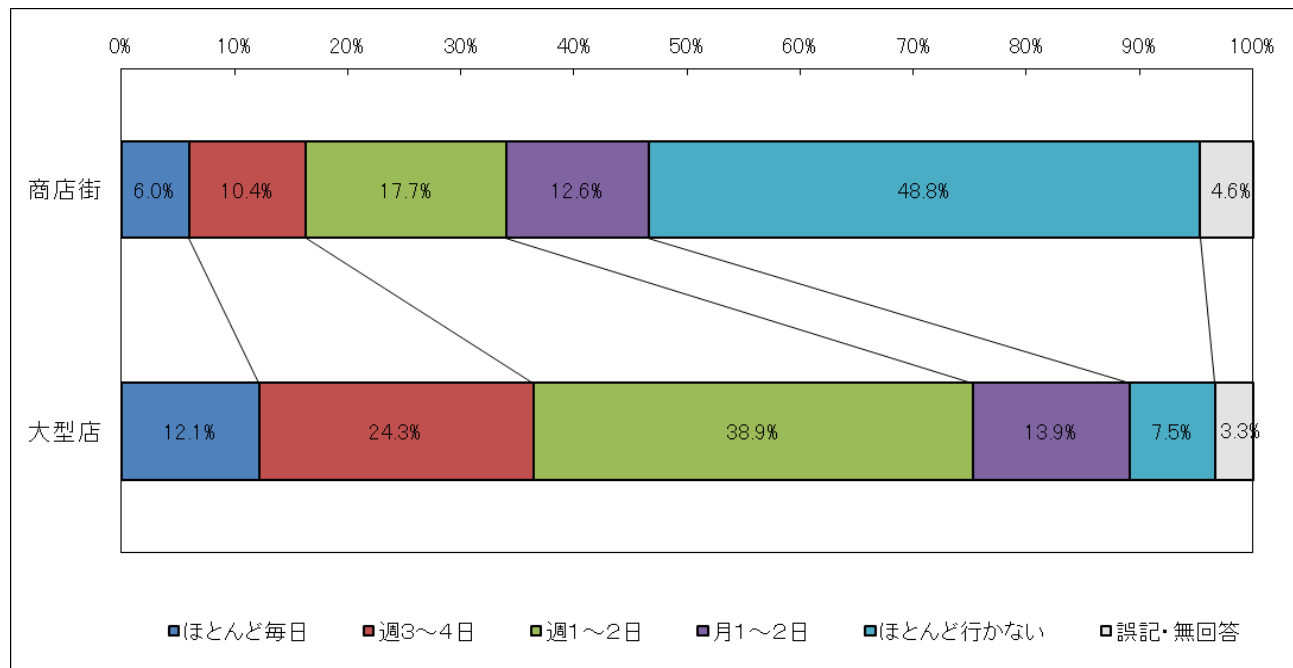
※令和2年以降 新型コロナウイルスの影響により未実施

3. 地域住民のニーズ等の把握

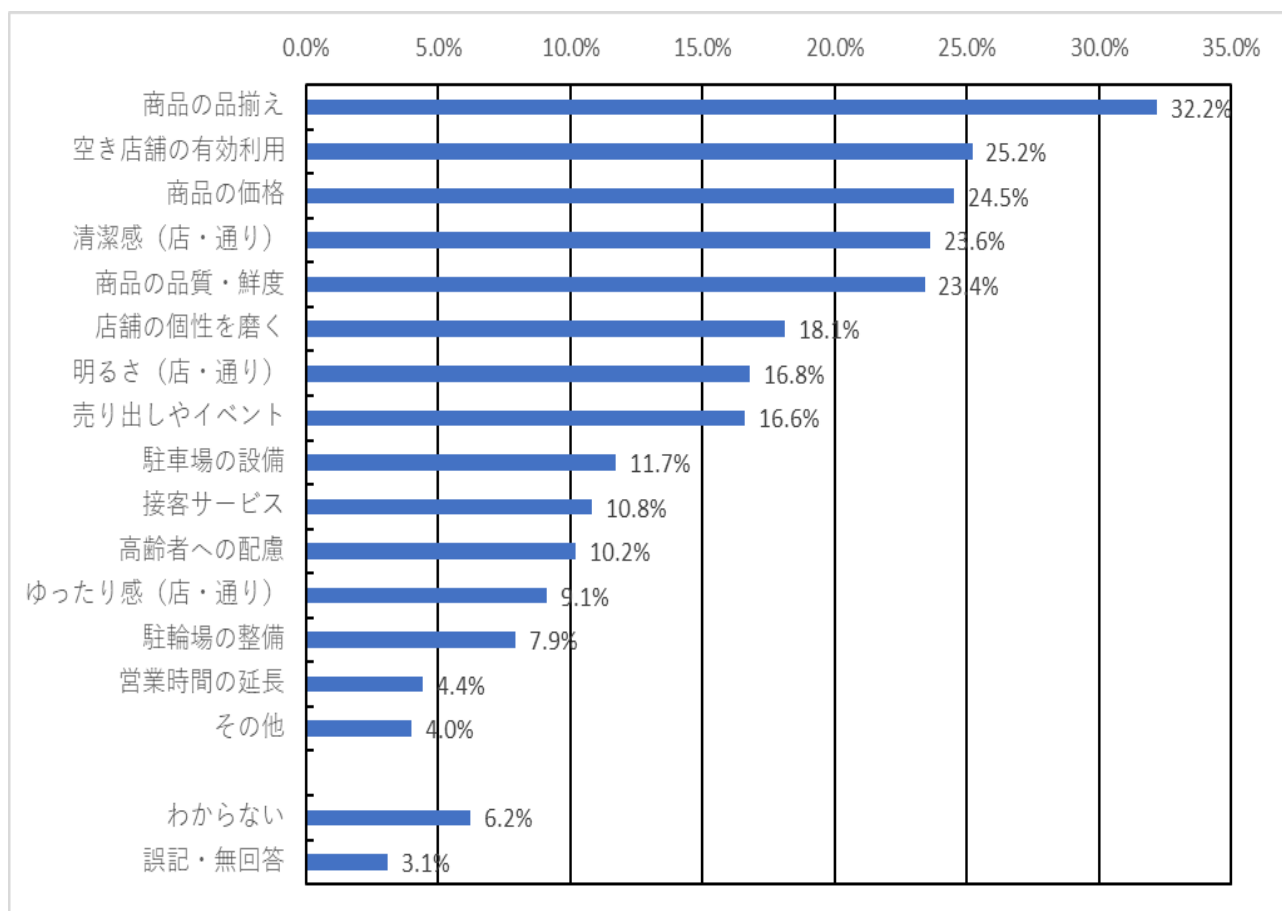
・商店街と大型店の買い物動向と商店街への要望

令和3年度の市民意識調査における市内の「商店街と大型店での買物頻度」(図表⑨)をみると、「ほとんど毎日」「週3～4日」「週1～2日」以上の割合は、商店街が34.1%であるのに対し、大型店は75.3%となっており、消費者の買物行動における大型店への依存状況がみて取れる。また、次頁図表⑩の「商店街に望むこと」をみると、「商品の品揃え」が最も多く、次いで「空き店舗の有効活用」となっている。この結果から、住民目線からも、空き店舗が多いと認識しており、空き店舗を減らすことがまちのにぎわいを出すために重要であると読み取れる。また、「商品の価格」「商品の品質・鮮度」などの商品自体への要望も多く出ているほか、「店舗の個性を磨く」がここ5年間で常に上位になっており、個性ある店舗を求める声が多いことが分かる。さらには、図表⑪のとおり、まちのにぎわい創出に向けて、「市内に充実してほしいと思うお店について」は、「生鮮三品(青果・精肉・鮮魚)」が最も多く、次いで「書店」、「惣菜専門店」となっている。

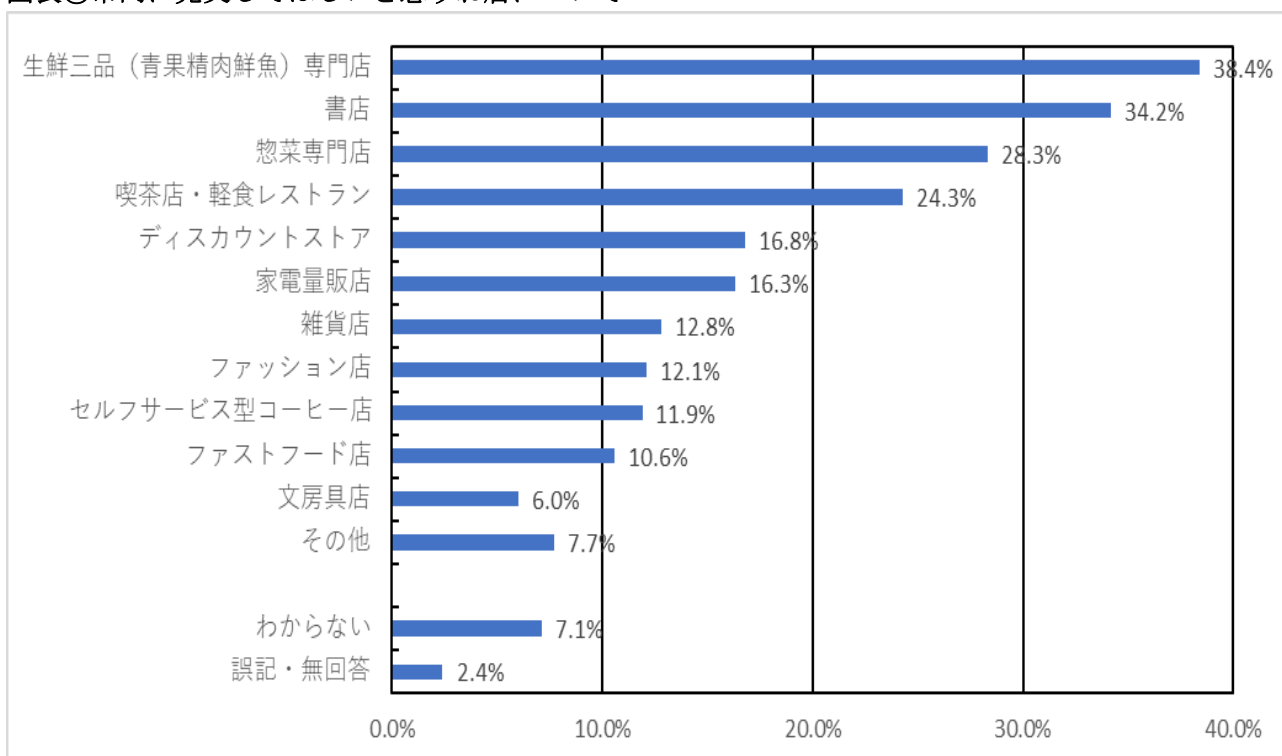
図表⑨商店街と大型店での買い物頻度



図表⑩商店街に望むこと



図表⑪市内に充実してほしいと思うお店について

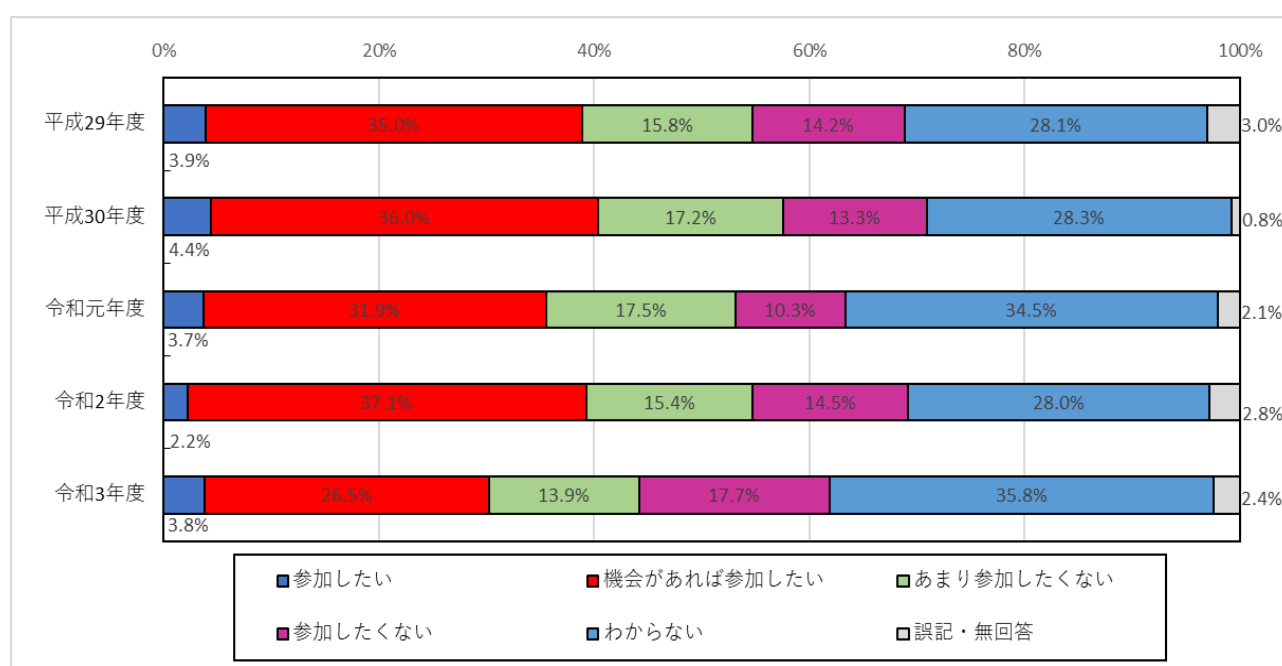


・住民のまちづくり参加について

令和3年度の市民意識調査における市民参加については、図表⑫「市政の計画づくりやまちづくりへの参加について」をみると、「参加したい」「機会があれば参加したい」を合わせた市政の計画づくりやまちづくりへの参加意向を持つ人の割合は30.3%となっている。

また、図表⑬「協働のまちづくりに必要なこと上位5位」をみると、「市民の声が反映される仕組みをつくる」「情報の共有を図る為、積極的に情報を公開する」が割合として高く、市民のまちづくりへの参加意識が高いことが読み取れると同時に、情報発信を望んでいることが分かった。

図表⑫市政の計画づくりやまちづくりへの参加について



図表⑬協働のまちづくりに必要なこと上位5位（平成29年度からの推移）

	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
平成29年度	情報の共有を図る為、積極的に情報を公開する 39.2%	市民の声が反映される仕組みをつくる 36.2%	活動しやすい環境を構築する 24.6%	補助金や交付金を継続し充実させる 13.0%	活動に役立つ講座や研修会等を開催する 10.4%
平成30年度	市民の声が反映される仕組みをつくる 38.0%	情報の共有を図る為、積極的に情報を公開する 37.2%	活動しやすい環境を構築する 20.4%	補助金や交付金を継続し充実させる 15.6%	協働のまちづくりの具体的な事例集を作成する 12.3%
令和元年度	情報の共有を図る為、積極的に情報を公開する 39.4%	市民の声が反映される仕組みをつくる 38.7%	活動しやすい環境を構築する 24.0%	補助金や交付金を継続し充実させる 14.0%	協働のまちづくりの具体的な事例集を作成する 11.9%
令和2年度	市民の声が反映される仕組みをつくる 37.5%	情報の共有を図る為、積極的に情報を公開する 33.2%	活動しやすい環境を構築する 23.0%	補助金や交付金を継続し充実させる 17.8%	協働のまちづくりの具体的な事例集を作成する 10.6%
今回	市民の声が反映される仕組みをつくる 36.6%	情報の共有を図る為、積極的に情報を公開する 32.7%	活動しやすい環境を構築する 23.6%	補助金や交付金を継続し充実させる 21.9%	協働のまちづくりの具体的な事例集を作成する 市民活動団体の育成や支援機関を充実させる 8.2%

4. 地域資源及び地域資源を活用した取り組み

地域資源

・機まつり

江戸から昭和にかけて機織物の名産地として名を馳せた。こうした産業の発展を願い、昭和26年から開かれている「わらび機まつり」は、織物のまち蕨の歴史を今に伝える夏の風物詩となっている。



・中山道蕨宿

慶長17年（1612年）に成立したといわれている蕨宿は、江戸から数えて2番目の宿場まちとして栄えた。こうした歴史や文化をはじめ、まちを築き上げてきた人たちの誇りを語り継ごうと、本市では、毎年「中仙道武州蕨宿宿場まつり」が開かれている。



・成年式発祥の地

昭和21年、日本国民が敗戦の虚脱状態にあるなか、次代を担う青年たちを励まし、勇気付けようと、全国に先駆けて行われたのが成年式である。本市では、当時の意志を受け継ぎ、今でも成年式と呼んでいる。



・三学院の藤棚

本市で唯一の天然記念物（平成19年3月に指定）である三学院の藤の木は、指定された当時においても樹齢100年以上と推定。立派な藤の幹周りは約3.3メートルで、太い枝は25メートル×10メートルの棚いっぱいに広がり、垂れ下がる薄紫色の花が、まるでシャワーのようである。



・わらびりんご

6月末には直径7センチほどの赤い実を付ける「わらびりんご」。日本一早く実がなることで知られる「わらびりんご」は、錦町に代々続く農家だった、故・吉澤正一さんが20年がかりで開発した蕨生まれのリンゴである。



・蕨双子織

蕨双子織は、本市が機織りのまちとして栄えていた江戸末期から明治中期にかけて、開発された地域の伝統織物である。瓦斯糸（がすいと）と呼ばれる細番手（ほそばんて）の双糸（そうし）を用いた平織であり、経糸は1cmあたり72本にもなる超高密度の織物で、光にかざしても透けて見えないほどで、当時、東京税務監督局に一等級として格付けされていた品質である。その後、機械化の波に乗れなかった本市の織物産業は衰退し、それと同時に双子織も幻の伝統織物になった。その後、平成16年に現存する明治期の縞帳や着物を分析し、機械織による「新織双子織」が完成した。本市、蕨商工会議所では、蕨が誇る伝統織物である蕨双子織を後世に伝えるため、平成27年度からブランドロゴの作成や双子織のれんアート、地元企業による双子織を使った商品開発等活動を進めている。



蕨 双子 織



地域資源を活用した取り組み

・地域の開発商品

本市、蕨商工会議所では、「地元の特産品がない」、「土産品がない」との市民の声を受け、地域の小規模事業者との共同開発等により、これまでに数多くの商品開発を行っている。



和楽備茶漬け

和楽備（わらび）神社から名前を取って和楽備茶漬けと名付けられた。市内飲食店7店舗で店の特徴を出したオリジナル茶漬けを開発。



大人のプリン

成年式発祥の地にちなんで名付けられた。フレンチのシェフとイタリアンのシェフを中心に蕨高校の料理部の生徒と共同開発。



蕨大人ドレ

成年式発祥の地にちなんで名付けられた。市内飲食店20店で共同開発。成年式のおめでたい日を表して紅白の2種類に。



タテヨコフタコパイ

蕨市の伝統織物である蕨双子織をモチーフにした菓子。メディアにも多数取り上げられる有名パン店「365日」の杉窪シェフがプロデュース。



わらびりんごシャーベット

わらびりんごの特徴である強い酸味を活かしたさわやかな味わいのシャーベット。埼玉県新商品アワード入賞。



わらびおやつ

コロナ禍における新たな需要「おうちみやげ」に対応する商品として、市内4店舗と連携し、4商品を開発した。



みんなのラスク



わらびもちしょくら



ダイヤモンド ノワール



どら焼き

地域資源を活用するための手段（手法）

・ 蕨ブランド認定制度

本市では、蕨らしさを有したものを審査し、品質も含め一定基準を満たしたものを蕨ブランドとして認定する制度を設けており、平成27年度に第1回蕨ブランド認定審査会を実施し、9事業者24件の申請品から5事業者5商品を認定した。第2回蕨ブランド認定審査会では、8事業者から11件の申請があり新たに5事業者5商品を認定し、総数10商品となった。※平成28年度に認定を受けた1商品は現在、お取り扱いしておりません。

有限会社上田衣料

認定品 「蕨上田」オリジナル鳶服

昭和43年創業の蕨を代表する鳶専門店で、商標登録している「蕨上田」の文字刺繍が入った、オリジナル鳶服は、デザインや機能性など、職人さんたちから厚い信頼を得ており、県内外からお店を訪れるほどの幅広い人気を博している。



株式会社ブラスト工房

認定品 蕨硝子 ※河鍋晩斎シリーズ

蕨硝子は、圧縮空気で砂を吹き付けてガラスを彫刻するサンドブラスト加工に、更に熱処理を加えて加工表面の質感を滑らかにした自社ブランド。デザインは、蕨の地域資源である河鍋晩斎記念美術館の所蔵作品の中からガイコツをモチーフとしており、ユーモア溢れる商品となっている。



有限会社クチュールカワムラ

認定品 蕨双子織を使用したショルダーバッグ

江戸から明治中期にかけて開発された蕨の産業であった蕨双子織を現代的にアレンジしたバッグは、帆布と組み合わせることにより、全て布製バッグになるため、軽くて丈夫。また、長い間使用することで、独特な風合いが出て、使用者の愛着がわく商品となっている。



わらびりんご生産管理団体
認定品 わらびりんごサイダー

市制 50 周年を機に、地域資源を活用したまちおこしとして、市民団体や農家の有志が、蕨で誕生した日本一の極早生種・わらびりんごの本格的な育成に取り組んでいる。その商品化の第一弾として、わらびりんごサイダーが誕生した。その年に市内で採れたリンゴを果汁にして使用し、リンゴの特徴である、酸味を生かした大人向けサイダーとなっている。



株式会社マイクロエース
認定品 C11-304 蕨保存車

大荒田交通公園に保存されている蒸気機関車 C11-304 を 150 分の 1 のスケールで可能な限り、忠実に模型化。展示用レール、囲いのフェンスパーツもセットになっており、大荒田交通公園での展示の雰囲気をご自宅で再現できる。



株式会社ニイニ
認定品 双子織トラックジャケット

超極細糸、超高密度の双子織の特長を最大限に生かし、保温性、透湿性、撥水性に優れたスポーツウェアを開発。走りながら、袖の取り外しができ、瞬時にベストになるなど、機能性やデザインも追求したこだわりの逸品。蕨から世界へと全く新しいスポーツウェアを発信している。



蕨双子織夢工房
認定品 双子織日傘

透けないほどの高密度で、木綿でありながら絹のような光沢が美しい双子織の特長を生かしたモダンな日傘。撥水加工もされているので、雨の日でも使用できる。



有限会社染太郎

認定品 蕨書き順Tシャツ

ビッグフラッグのパイオニア、「染太郎」がテレビ番組の取材をきっかけに開発した、本市のお祭り定番アイテム。毎年新しいデザインで販売され、シリーズで集める固定客もいるほど息の長い商品である。



一般社団法人蕨ブランド協会

認定品 わらびの蕨もち

100年後も愛される本物志向の土産品を開発しようと、蕨という地名や成人式発祥の地をキーワードに、これまでにない蕨市独自の新しい蕨もちに仕上げた。生の蕨もちに近い状態を保ちながら、賞味期限2週間を実現。生地で餡を包み、一口で食べることができる新しいタイプの蕨もちである。

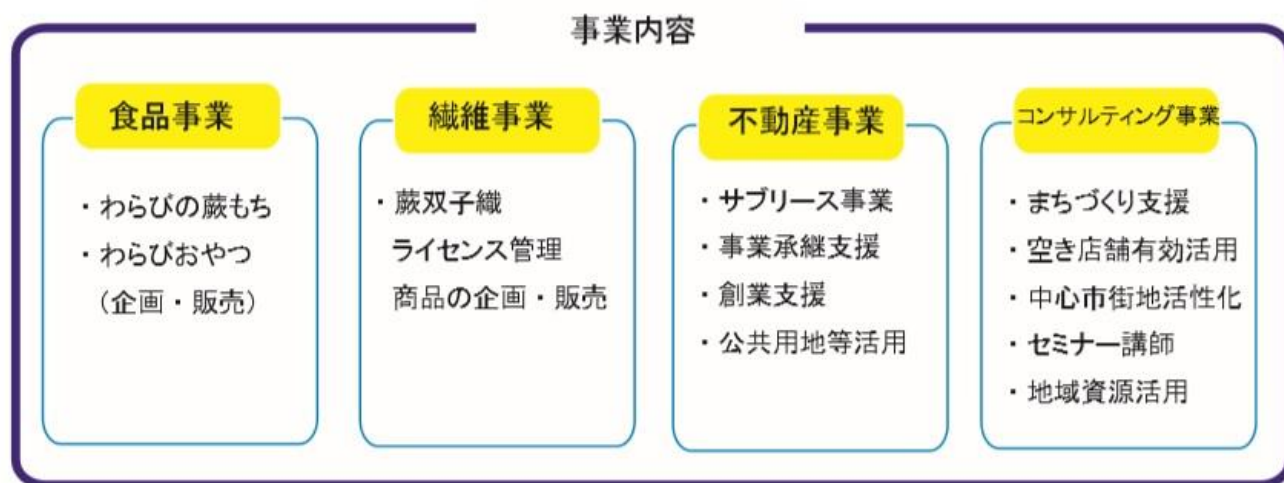


・ふるさと納税の返礼品

本市の蕨ブランド認定商品を中心に、120商品（令和4年2月1日時点）が寄附の返礼品として対象となっている。返礼品を通じて市内の企業のプロモーションを支援すると同時に、いただいた寄附金は、「ふるさとわらび応援基金」に積み立て、活力あるまちづくり等の事業に活用している。

・一般社団法人蕨ブランド協会

本市の地域課題である空き店舗や蕨ブランドの普及などをビジネスの手法で解決することを目的に、蕨商工会議所が中心となり、(一社)蕨ブランド協会を平成31年3月に設立。蕨ブランド協会は、不動産事業のほか、蕨ブランド販売事業、コンサルタント事業などを柱に、空き店舗や蕨ブランドの普及等の課題解決を図るなど地域商社の役割も担っている。本市では、当該法人と連携を取りながら、地域課題の解決を目指していく。



・WARABI SELECT SHOP (ワラビセレクトショップ)

蕨ブランド協会運営の下、空き店舗を有効活用し、令和元年10月に「WARABI SELECT SHOP」が開店した。蕨双子織のオリジナルブランド商品や市内事業者が開発した双子織商品をセレクトしているほか、蕨商工会議所が開発した「わらびの蕨もち」や「わらびおやつ」などの販売を行っている。

また、双子織の機織教室や雑貨等の手作り教室なども実施している。この取り組みについては、埼玉県内の商店街や中心市街地にある空き店舗を活用し、地域ににぎわいを生んだ事例を表彰するコンペティションである「埼玉県まちなかりノベ賞」の奨励賞を受賞している。

